

環境マネジメントシステム導入報告書

(宛先) 京 都 府 知 事	2015年 7月 8日
住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地) 京都府京田辺市大住立原1-1	氏名(法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 株式会社明治 京都工場 工場長 吉田 晃

環境マネジメントシステムの名称	ISO14001:2004, JISQ14001:2004
適用範囲	ヨーグルト・市乳・デザート(フリン・ゼリー等)・ロングライフ製品(ジュース類を含む)の製造
導入年月日	1998年 12月 21日
認証番号	1074455-3073578

基本方針	<p>【環境理念】 私たち明治グループは、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。そのために、地球環境と事業活動との調和を図り、環境に配慮した企業経営を推進していきます。</p> <p>【環境方針】 明治グループは、明治グループ理念および明治グループ環境理念を実現するために、以下の環境方針に従って事業活動を展開します。</p> <p>法令遵守</p> <p>1. 国内外の環境にかかわる法令、条令、ステークスホルダーとの協定、業界規範、自主基準を遵守します。</p> <p>環境保全活動のスパイラルアップ</p> <p>2. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、継続的な改善を図ります。</p> <p>環境負荷低減</p> <p>3. 商品の設計から廃棄に至るライフサイクル全般及びあらゆる事業活動において、生産性の向上、省資源、省エネルギーを推進し、環境負荷低減を図ります。</p> <p>生物多様性の保全</p> <p>4. あらゆる事業活動において、グローバルな視野を持って生態系に配慮し、生物多様性の保全に努めます。</p> <p>環境マインドの醸成</p> <p>5. 自然を敬い、自ら進んで環境を考え行動する従業員を育成し、環境理念の実現を図ります。</p> <p>社会との共生及びコミュニケーション</p> <p>6. 社会との対話や、環境活動への参画により、社会との共生を図ります。また、環境情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。</p>
------	--

環境に配慮した事業活動を自主的に進めていくための目標(以下「目標」という。)	<p>2014年度目標は、</p> <p>①電力使用量13年度比1%削減 ②ガス使用量13年度比1%削減 ③水の使用量13年度比1%削減 ④産業廃棄物13年度比1%削減 ⑤CO2排出量13年度比1%削減</p>
--	---

目標を達成するための取組の内容	<p>目標の①～⑤の項目に対して、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産稼働率向上と安定稼働による省エネルギー(①～⑤)</li> <li>・稼働率向上により運転時間を削減し、ガス使用量を削減する(②)</li> <li>・廃棄原料の削減による環境負荷低減(④)</li> <li>・配送車の配送効率化によるCO2排出量削減(⑤)</li> </ul> <p>上記の取り組みを行った。</p>
-----------------	--

目標を達成するための取組の進捗状況	<p>上記の目標達成に向けた取組み内容の進捗状況は</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産効率向上と安定稼働による省エネルギー → 継続活動中</li> <li>・稼働率向上により運転時間を削減し、ガス使用量を削減する → 継続運用中</li> <li>・廃棄原料の削減による環境負荷低減 → 継続活動中</li> <li>・配送車の配送効率化によるCO2排出量削減 → 継続運用中</li> </ul>
-------------------	---

目標を達成するための取組の成果及び当該成果に対する評価	<p>2014年度目標は、</p> <p>①電力使用量13年度比1%削減 → 実績 9.57%削減 ②ガス使用量13年度比1%削減 → 実績 16.4%増加 ③水の使用量13年度比1%削減 → 実績 7.94%増加 ④産業廃棄物13年度比1%削減 → 実績 18.5%増加 ⑤CO2排出量13年度比1%削減 → 実績 11.15%増加</p> <p>と電力については削減したが、ガス・水の使用量や廃棄物・CO2排出量は増加している。次年度は削減に向けて分析、評価を行い削減に努める活動を行う。</p>
-----------------------------	--

事業活動に係る法令の遵守の状況	毎年、内部監査で実施している。
-----------------	-----------------

環境マネジメントシステムの評価及び見直しの内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネ、稼働向上(超安定稼働)に継続的に取り組む。</li> <li>・現状の生産方法の枠にとらわれず、新ラインでは革新的な方法を見出す。製造現場も巻き込み、無駄を洗い出し、省エネを実行していく。(生産性向上も省エネになる。)</li> <li>・CIPの見直し(酸洗浄が必要か否か)をし、水、電力を削減することも今後検討の余地あり。</li> </ul>
-------------------------	--

注 認証番号の欄は、導入した環境マネジメントシステムについて第三者の認証を受けている場合のみ記入してください。